

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700030		
法人名	医療法人誠晴會		
事業所名	グループホームふるさとの森		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字太良糸岐6851-3		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年12月3日	外部評価確定日	令和3年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな多良山系で西は多良岳、東には有明海を望み、景観に恵まれたグループホームです。施設の畑では四季折々の作物が収穫できます。収穫した作物は食事で提供し、時には入居者様と協力して調理を行います。またカラオケや美容室への外出等、本人様の希望に合わせた楽しみ作りへの支援にも力を入れています。併設の老人保健施設より各専門職による医療面と機能維持へのサポートが受けられる体制も整えてあります。職員は利用者様の思いや感情を大切にし、ゆっくりゆったりとした生活の中で、思い込みに囚われず、個性に合わせたサービスとなるよう工夫を凝らしています。又、一緒に歩む心でその時々に応じて最適な支援方法を模索し、自力支援を中心に常に向上心を持って試行錯誤を重ねています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所開設にあたって、理事長の「新しい介護」「新しい発見のある介護」を目指したいという思いを実現している事業所である。利用者一人ひとりの個性に合わせたサービスを提供したいと考え、日中の過ごし方も敢えて画一的でなく、利用者中心の流れで、一日が送れている。利用者の尊厳を尊重し、先入観にとらわれないチームワークによる支援は、利用者の柔和な表情となって現れている。</p> <p>バリアフリーの室内は、自然光の差し込みで明るく、床下換気装置の採用で空気のよどみも無く、清潔感にあふれている。リビングは、和と洋のスペースが設けてあり、利用者は自分の生活スタイルに合わせた、思い思いの充実した時間を過ごしている。浴室、トイレも利用者が使い易く、支援が行き届く造りになっている。食事は園の台所で調理され、家庭菜園で収穫した野菜も食卓にのぼっている。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染防止に万全を期している中でも、事業所が人とあまり接しない小高い丘の上にある特性を利用して、周辺を散歩したり、外気浴を楽しんでいる。周りの景観や、ミカン畑は利用者の心を癒している。また、車の窓からのドライブやふるさと訪問、ウォークラリー形式の桜巡りなどで、外出希望に応えている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開設当時に職員で話し合い、設定している。折に触れて会議でも課題にしながら確認し、意識の共有に努めている。	母体法人の基本理念を幹として、事業所としての色(理念)を1年間をかけて全職員で検討を重ね、創り上げている。理念は玄関に掲げられ、来所者や職員の目につきやすい。また、スタッフが記録する際に使用するカウンタールームにも置かれてあり、職員は何時も理念を目にしている。自分たちが創り上げた理念であり、常に支援の原点として意識している。そして、利用者一人ひとりに寄り添った支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2～3回は地域の行事に参加したり、趣味サークルからの慰問を受ける。コロナ禍でここ二年は実施出来ておらず、月一回の病院受診で、主治医や地域住民との触れ合いがある。	地域の自治会に加入しており、回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得ている。これまで、老人クラブの便りも届けてもらったり、職員で自発的な奉仕作業をするなど、積極的に地域と関わりを持っている。また、文化祭や地域の祭りにも参加したり、学童保育の子供たちや地元高校生との交流も行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のために、中断している。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域との付き合いが、以前より薄くなっているのは仕方がない一面もある。しかし、コロナ禍が終息すれば、以前と同様に地域との交流が再び活発になることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域に出掛ける事は出来ていないが、運営推進会議の中での発信は心掛けている。また、家族様の面会時などに積極的に聞き取りをするなど、いつでも相談できる環境を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの現状報告を行い、率直な意見を頂く。 ここ二年間はコロナ禍により中止したり、報告のみの短時間で終了する事が多く、直接的な意見を頂く事が出来ていない。	年6回の開催が予定されていたが、コロナ禍のために資料を送付して意見をもらったり、短時間ではあるが会議も開かれている。その中で、畑作業中の体調管理や、看取り介護の実績、食事希望に対する取り組み、利用者同乗の時の安全運転、キーパーソンの面会方法、外部評価に対する疑問などが話し合われている。コロナ禍以前の会議でも、地域の情報や行事参加のお誘い、豪雨の際の対応、消火訓練の繰り返しの必要性など、双方向的に意見が交換され、極めて有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携は月に1～3回、訪問や電話にて行っている。	様々な機会をとらえて行政と関わりを持ち、管理者は行政担当課とは顔なじみの関係でもある。入居希望者の情報、地域ケア会議に関する件、新型コロナウイルス感染防止対策、ワクチン接種に関する件など、直接出向いたり、電話での相談や情報交換の機会も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に二回の事業所内の研修のほかに、外部での研修にも定期的に参加し、事業所全体で身体拘束についての理解を深めている。ホームでは日常的に施錠せず、積極的に散歩の声掛けと実施によって閉塞感の解消に努めている。	利用契約時に身体拘束がない支援について説明し、理解を得ている。研修会や勉強会の積み重ねで、身体拘束や言葉による心の拘束のない支援についての認識が深まり、身体拘束の事例はない。玄関には施錠はなく出入りも自由である。仮に外への関心が高い利用者にはスタッフが同行し、行動を抑制することはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に二回の介護老人保健施設との合同研修の他に、外部での研修にも定期的に参加し、虐待についての理解を深めている。また、新しい情報の収集にも努めている。そして、日頃のケアの中に潜んでいる、虐待に値する言動がないか、職員間での気付きを互いに注意し、話し合える環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は定期的に研修を受けるが、職員については名称を知っている程度であり、現在学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かり易い言葉での説明を心掛けながら、和やかな雰囲気作りに努め、形だけの説明とならないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けておらず、意見の反映方法としては意見箱の設置を行う。また、面会時にどの職員でも話しやすい環境作りに配慮し、必要時には迅速に返答できるよう努めている。	新型コロナウイルス感染防止のため、家族との面会にはガラス越しの面会制限を設けていたが、現在は、アクリル板越しで、室内での対人面会に切り替えている。また、電話やメール、利用者毎に写真を添えたホームだよりで、生活の様子を伝えたり、要望や意見等も聴き、支援や運営に活かしている。 家族等が来所の際には、気軽に何でも話せる雰囲気や環境づくりに普段から努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回の人事考課で個別面接実施している。運営に関する意見や提案は少ない為、関心が持てるような話題作りが必要である。	管理者は、職員が自由に発言しやすい環境づくりに配慮している。年代毎にバランスのとれた職員構成であり、自分の考えを押し付けるのではなく、投げかける姿勢であり、その思いが職員に伝わっている。各職員も遠慮なく意見を出し合い、チームワークでの運営や支援である。若い職員とは、LINEをきっかけにして意見等を聴き、運営に活かす工夫もしている。職員からのウッドデッキの手すり設置の要望は、運営に反映された一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験、資格取得などを給与に反映させるシステムが整えられている。希望に沿った労働時間の選択も可能である。育児休暇や介護休暇の取得も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適材適所で事業所内でのローテーション、スキルアップに向けての研修やコーチングなどが実施されている。また、研修費の補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流会や事業所視察の取り組みがある。そこで他事業所の良い点を見習い、自事業所の反省点を導き出せる機会として捉えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様への聴き取りを重視し、不安や悩み、ニーズの把握を図っている。家族様からの聞き取りも併せて、必要な支援を見極め、適切なサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のこれまでの苦労を労うと同時に、現在の生活に抱かれている不安や、ホーム生活に対する不安も聴き取っている。そして、家族様が安心して前向きな気持ちを抱けるような会話を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様への聴き取りと生活状況などから、本人様にとって必要と思われる支援を提案しながら、適切なサービスを提供できるように努めている。思い込みに囚われないよう、想像力を持った対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介助する」ではなく、同じ目線で一緒に生活していると思って頂けるような「お手伝い」を心掛けている。また、食材の下ごしらえや調理法など、入居者様の得意分野で職員がサポートを受ける環境も整えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、月1回写真とお便りを送付し、遠方にお住まいのご家族にも、ホームの日常生活を身近に感じて頂くことで関係性が保てるよう努力している。コロナ過であり、感染対策を行い、ガラス越しで電話での面会等、お互い顔が見える事での喜びを感じて貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診は、かかりつけ医で継続している。可能時には感染対策を徹底し、ご家族様や知人の方との面会も支援を行っている。	新型コロナウイルス感染には十分に配慮しながら、少人数でアジサイやコスモスを車窓から見学するドライブに出かけている。また、利用者の自宅周辺まで出かけることもある。理美容は、馴染みの出張理美容を利用している。以前は買い物は、道の駅まで出かけていたが、現在は見合わせている。お茶の詰め放題に出かけた楽しい思い出もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が挨拶の仲介を行う事で、入居者間のコミュニケーションがスムーズにできるよう努めている。また、お互いの持病や障害について相互理解ができるよう、分かりやすい説明に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々の挨拶に一言添える等、退所後も関係が継続していると伝え、相談しやすい環境と関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の言葉に出来ない思いを、生活される中から言葉の中や表情から汲み取れるよう努めている。また、聞き取りが難しい方には、家族様の話や生活歴などの情報からも意向を汲み取っている。	利用者の担当制をとり、より深く利用者の思いや心情を汲み取っている。また、一人ひとりの心に寄り添い、暮らしの中での雑談、つぶやき、ちょっとした行動や表情の変化などからも、心情を推し測っている。入浴時等のくつろいだ時間や、他の利用者から離れて一人で居られる場所で、本音を聴くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様との雑談からも情報を得られるよう、普段の会話にも工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のペースを優先し、支援の無理強いはいはしない。また、過介助とならないよう、本人様の生活機能を把握すると共に、職員間の情報の共有とケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきがあれば迅速にカンファレンスを実施する他、申し送り時にも気づきの共有と意識の統一が図れるよう努めている。また、担当者会議や面談時のご本人やご家族からの意見も介護計画に反映できるよう努力している。	担当者会議を含めて、全職員が一つのチームになり、利用者本位で実現可能な具体的な計画が作成されている。利用者やその家族が、利用者の生活に対する意向を踏まえた課題分析と、介護審査会の意見のうえに、総合的な支援の方針が作成されている。毎月のモニタリングや申し送りにより、定期的に、また、臨機応変に計画の見直しが行われている。計画更新時には改めて家族の意向を、面会時や、電話、メール、暮らしの様子が変わるお便りなどで、確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録の他、職員の気づきはその都度申し送りをし、情報共有を行っている。集まった情報はカンファレンスを通して介護計画にも反映している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア理念に掲げるチャレンジ精神と自由な発想のもと、固定観念に捉われず試行錯誤しながら支援を行っている。外出などは事業所の感染対策レベルに応じて、可能な限り希望を引き出し、叶えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域のイベントに出かけたり、地元グループの慰問を受け入れるなど交流を図れていないが、利用者様で協力し合って作品を作り、太良町の文化祭に出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは受診時に日頃の情報提供を行い、信頼関係の構築を図り、定期受診以外にも臨機応変に対応して頂いている。また、他の病院を受診希望される場合も、希望に沿うよう支援している。	利用者やその家族が希望する医療機関での受診である。協力医療機関での受診がほとんどで、受診の際は職員が同行し、支援している。協力医療機関とは何時でも相談ができる関係にある。看護師も毎週来園して支援に関わっている。家族は医療面、健康面、安全面について安心感を持っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の観察行い、必要時には介護老人保健施設の看護師へ、処置の要請や、医療的判断を相談し、協力を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問し、支援相談員との情報を共有することで、早期退院に向けての体制作りとスムーズな再入所への環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針があり、サービス計画の更新や体調の変化があった際などに、ホームでできる事とその限界について理解して頂けるよう説明している。重度化された場合は、病院や適切な施設等との連携ができる状況であり、家族様の不安軽減に努めている。	「重度化対応及び看取りに係る指針」があり、契約時に納得のいく話し合いが持たれている。看取り介護の実現にあたっては、協力医療機関からの勧めや相談があっている。家族の希望による看取り介護の事例もあり、家族、主治医、スタッフ間の緊密な相談や連絡がとられている。看取り介護の支援にあたっては、あらかじめ職員を県立病院好生館での研修に派遣している。研修結果をエンゼルケアとして職員間で共有し、看取り支援に臨んでいる。最期のお別れを、利用者も一緒に見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、グループホーム交流会や介護老人保健施設での救命対応、心肺蘇生法、AED取扱いの研修に参加しているが、全職員が参加できているわけではない。自施設内での自発的な訓練はまだ実施していないため、実践力には不安がある。日頃からの意識付けの為に、年に2～3回は実施する必要があると考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えた訓練は消防署と共同で、年に2回定期的に行っている。地震等、その他の災害に関する訓練はできておらず、これからの課題である。	年に2回、夜間の火災発生を想定しての避難訓練を消防署も立ち会って実施している。実施後の反省も丁寧に行い、次回の訓練に活かしている。利用者も参加しての訓練であり、昼間の時間帯に実施しているが、実際に夜間発生の場合の、通報体制、暗さの中の避難、地域との協力体制等に一抹の不安を抱いている。消防署は一斉通報装置の設置を勧めている。また、自然災害に関するマニュアルの見直しを課題としてとらえている。	事業所は小高い所にあり、隣に介護老人保健施設や居宅支援事業所、留学生の宿舎はあるが、周辺の民家とは少し離れている。台風時の強い風当たりや積雪時の職員出勤の制約等も予想される。それだけに、火災対策だけでなく、地震、大雨、台風等の自然災害時の対策についても、地元消防団を含む地域との協力体制の構築につての再検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声かけひとつにしても、其々の個性があり、同じ声かけではいけないことの重要さを職員全員が周知している。丁寧な言葉遣いの中にも方言を交えることで、人格の尊重になることも理解している。	利用者一人一人の尊厳や持ち味を活かすことを諸支援の基盤にしている。言葉かけ一つにしても個性を理解し、その方にあった支援を、接遇の研修や日常の関わりの中で見つめ直している。管理者の職員への適切な助言、指導、見守りは、職員自体の質を高め、それが支援に反映している。個人情報の取り扱い、重要事項説明書のとおり機密保持を含めて、きちんと遵守されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細な会話から本人の考えや要望を聞き取れるよう、リラックスして話して頂けるような環境作りに努めている。また、自己決定が困難な場合には、さりげなくきっかけを提案できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排せつ等、生活の流れを業務に合わせてしまわないよう無理強いせず、その時の気分にあった生活をして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を決定する事は困難でも、一緒に見てもらいながら支援している。女性ではアロママッサージやネイル、化粧なども気分に合わせて実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを伝え、どんな準備が必要か一緒に考える時間をとるよう配慮している。無理に勧めるのではなく、その日の気分に合わせながら、下ごしらえや味付け等ができるよう下準備を行っている。食事は一人一人の残食などから好き嫌いの確認を行い、代替品の提供等、臨機応変に行う。片付けでは食器の拭き上げで、皆様の状態に合わせた声かけや準備等、できる限り参加し易い環境に配慮している。	献立は、法人の管理栄養士が立てている。利用者の嗜好、希望、健康状況等にも十分に配慮してある。季節や行事食、時にはホームの畑でとれた野菜が食卓に上り、利用者の楽しみにもなっている。ホームの台所で調理される食事は、調理する音や薫りが食事の楽しみを増している。すりつぶしが必要な方には、食材の色がしっかりわかるようにしている。家庭菜園で収穫した大根をすりおろしたり、味見をする等、利用者の得意を活かしながら、無理なく一緒に準備等ができるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事や水分の摂取量を把握・共有し、摂取量や本人様の希望に応じて食事量の調節や栄養補助食品の提供を行っている。特に、水分摂取量については、定期的に情報交換を行い、ゼリーの提供や食器の工夫で、水分量の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、セッティングを行うが、日中は実施されない方が多い。しかし、就寝前は全員実施して頂き、義歯も洗浄剤で夜間預っている。会話の中で口臭や汚れの発見に努め、特に舌苔の発見に努め、本人様が納得されるよう丁寧に説明を行いながら、保清に努めている。協力歯科医の往診も二か月に一回受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声かけにより、失敗予防や環境を整える事で自力でのパット交換を促せるよう努めている。また、排泄パターンを職員間で共有し、適時のさりげない声かけにて、交換が習慣化されるよう取り組んでいる。特に、個々に合った排泄用品の選定で、汚染予防と自力支援には力を入れている。	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握と職員間の連携によって、排泄の自立に向けての支援を工夫している。パットをその方に合う種類に変えることによって、パット交換を自分でできるようになった方もある。すべてのトイレは、車椅子でもゆとりのある広さで、手すりも適所に付けられ、自立を助けている。排尿に不都合なことが合った場合は、そっと声をかけ、自尊心に配慮しながら、居室で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼らない自然な排便を目指し、腹部マッサージや定時の水分補給を実施している。また、便秘と運動の関係について説明しながら、軽体操や外気浴散歩にも取り組んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望を聞き取り、入浴日や入浴頻度へ反映している。入浴を好まれない方には、理由を職員間で考え、適した声かけの仕方に努めている。部分浴や更衣の勧め、声かけの工夫などを行い、本人様が清潔保持に関心を持ち自発的に入浴して頂けるよう働きかけている。	週に2～3回の入浴を目途に支援している。入浴時間や時間帯に特に決め事はなく、できるだけ希望に沿った入浴である。季節のゆず湯やしょうぶ湯で入浴を楽しんでもらうこともある。入浴をおっくうがる利用者には、入浴を無理強いすることはない。浴槽は浴室の中央に置かれ、支援しやすい作りになっている。体が不自由な方も、入浴器具を使用して湯舟に入ってもらうように支援している。時節柄、冬場のヒートショック防止にも、十分に留意している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、自由に過ごして頂いているが、昼寝は声かけし、ベッドでゆっくり休んで頂いている。意思表示が困難な方には、表情や座位姿勢等から状況を汲み取り、安静時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確実に把握、理解しているかはやや不安がある。しかし、その方にとって重要な薬については、管理者、看護師にて適時説明し、情報の共有を行い、変化の確認にも漏れがないよう十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや食器拭き、洗濯物を干す・たたむ等の家事等、自分から進んで関わって頂けるには、その時の気分や能力に合わせるのが難しく、働きかけに試行錯誤している。気分転換では、カラオケや園芸、定期的なドライブ等の楽しみ作りにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外を眺められる、落ち着かれない、等の様子が見られた時は積極的に外気浴にお誘いしている。また、カラオケ外出の他、不定期のドライブや地域行事への参加ができるよう外出支援している。	その日の希望によつての外出支援が多い。現在、新型コロナウイルス感染防止のために、人と接しない、事業所周辺の散歩や外気浴が多い。高台にある事業所から見える景色や、ミカン園の作業等を見ながらの散歩は、心が安らぐひと時でもある。職員の発想で、桜の季節に周辺の桜の木に目印のカードを見つけて、マップを完成させウオークラリー形式の花見を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様とご家族様の希望に応じて、本人管理か事務所預かりの対応を行っている。必要時にはお渡しし、買い物等への使用を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話を希望される場合は、職員が取り次ぎを行っている。希望者には携帯電話も所持していただき、自由に家族や知人と連絡取ってもらっている。家族様へのお便りとして、年賀はがきと暑中見舞いの作成の支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は昼夜清掃を行っている。また、施設周囲の草花を飾り、季節を感じられるよう工夫している。その他、不快な音にならないよう食器の洗い方に注意したり、天候や時間帯に合わせてカーテンや空調の調節、窓の開閉等を行い、季節に合った環境で居心地良く過ごせるよう努めている。	居間は、天井が高く開放的である。落ち着いた色調の中に、自然光が射し込み、明るくて静かである。無用な雑音もない。自然換気も取り入れ、空気のとどみも無く、室温や湿度も快適に調節されている。畳の間もあり、こたつにも利用できる。居間、居室、浴室、トイレなどの空間も清掃が行き届き、清潔感がある。室内の随所に居心地よく過ごせる工夫が見られる。大型画面のテレビ番組を楽しんだり、新聞の「有明抄」を毎日書き写している方もある。猫のミーコとのふれあいは、利用者の喜びでもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間、こたつ等をいつでも自由に使用できるよう整えている。他者様と会話する他、一人で新聞や本を読んだり調べ物をする等、皆様思い思いに過ごされている。時には他者様の居室を訪問し、会話を楽しまれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様やご家族様の希望を聞き取り、家具の配置に反映している。居室には慣れ親しんだ写真・本・植木等の私物を自由に置いて頂けることお伝えしているが、持ち込まれる方は少ない。	各居室ともすっきりと整えられている。馴染みの品や慣れ親しんだ物の持ち込みに特に制限はない。家族の写真、鉢植え、亡きご主人の仏壇に花をあげている利用者もある。誕生祝いのメッセージや写真、年賀状なども飾られている。また、常備薬の飲み忘れや誤飲が無いようにと、薬袋を貼ったお薬カレンダーも見られる。遠方に住まいの娘さんからの嬉しい贈り物もある。どの居室も、利用者が安心して落ち着いて過ごせる場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では本人様に自由に行動して頂いており、本も自由に読める状態で見守りを行っている。日めくり暦の担当や新聞の書き取りもされている。歯磨き、トイレのパット入れ等、個人名を分かり易いよう印字し、配置なども工夫し自力支援に配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない